金尾山城跡（大里郡寄居町）

築城年代：天文元年（1532年）、築城者：藤田重利

この右手が金尾山城跡のある金尾山で「つつじ公園」となっている

毎年4月中旬~5月上旬　つつじ祭り開催
P
金尾山つつじ公園駐車場
平成25年11月に「第37回全国育樹祭」が開催され、当地にて皇太子殿下がお手入れをされました。
周辺案内図
◆駐停車中のエンジン停止は、埼玉県条例で義務付けられています。
◆駐車場内での、事故、盗難等については、一切の責任を負いかねます。
◆ゴミは持ち帰りましょう。

正面の階段から登って行こう/こちらは金尾山城跡の南面になる

前方に説明板が立っている

金尾山つつじの保存のあゆみ
感謝状
記念碑

金尾山城跡は要害山城跡とも呼ばれる

金尾山つつじの保存のあゆみ

ここ金尾山（つつじ山）は、戦国時代（ 15 世紀中期から16世紀末）には、鉢形城の支城・要害山城があった所です。また、山頂付近には、火伏せの神を祀った愛宕神社があり、地元の人々の崇敬を集めています。

この山は、昔からつつじの自生地で、上郷耕地、金尾農事学術研究会、金尾愛郷会など地元先人の熱意により永年つつじの保護育成が行われてきました。

特に、昭和３４年４月５日に第１０回全国植樹祭が当地で開催されたことを機に、地元に金尾保勝会（現寄居町観光協会金尾支部）が結成され、先人の意志を受け継ぎ、４０余年にわたり、植栽木の巡視及び下草刈り等、住民の積極的な奉仕協力により、つつじの保存活動を継承してきました。

これら永年の功績が讃えられ、埼玉県知事から寄居町観光協会金尾支部に次の感謝状が贈られ、地元からは、そのお礼として答礼歌を贈りました。

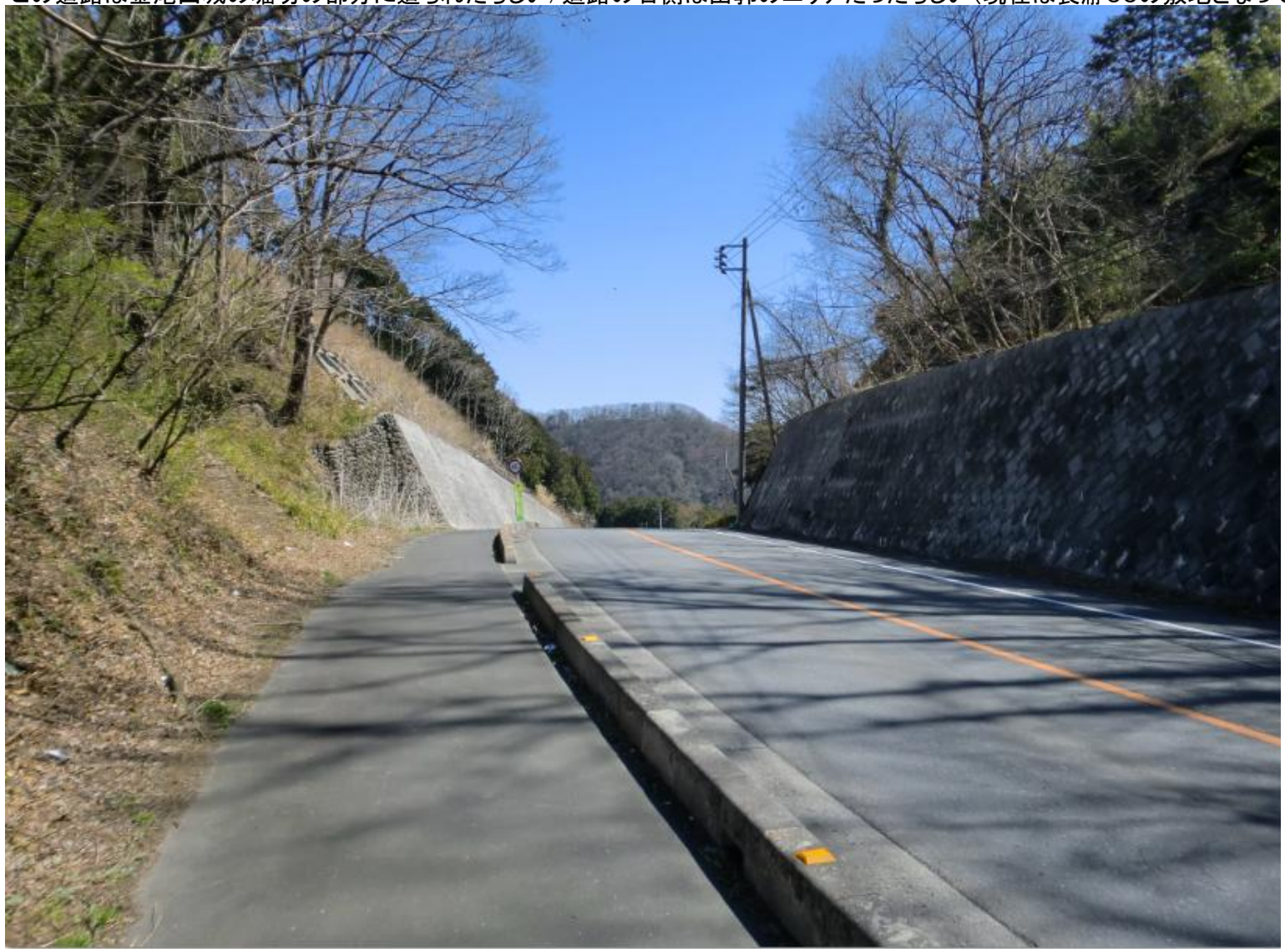
ここに、つつじ山の保存に努められた地元人々の活動に感謝の意を捧げ、その事績を後世に伝えるものです。

天皇皇后両陛下の「御手植樹」の碑も立っている

さて、ここを直登して行けば金尾山城跡へ辿り着きそうだが、一度元へ戻って左手（西面）から登ってみよう

これは西側から金尾山城跡を見たところ

この道路は金尾山城の堀切の部分に造られたらしい/道路の右側は出郭のエリアだったらしい（現在は長瀞CCの敷地となっている）



さて、こちらから金尾山城跡へ登る

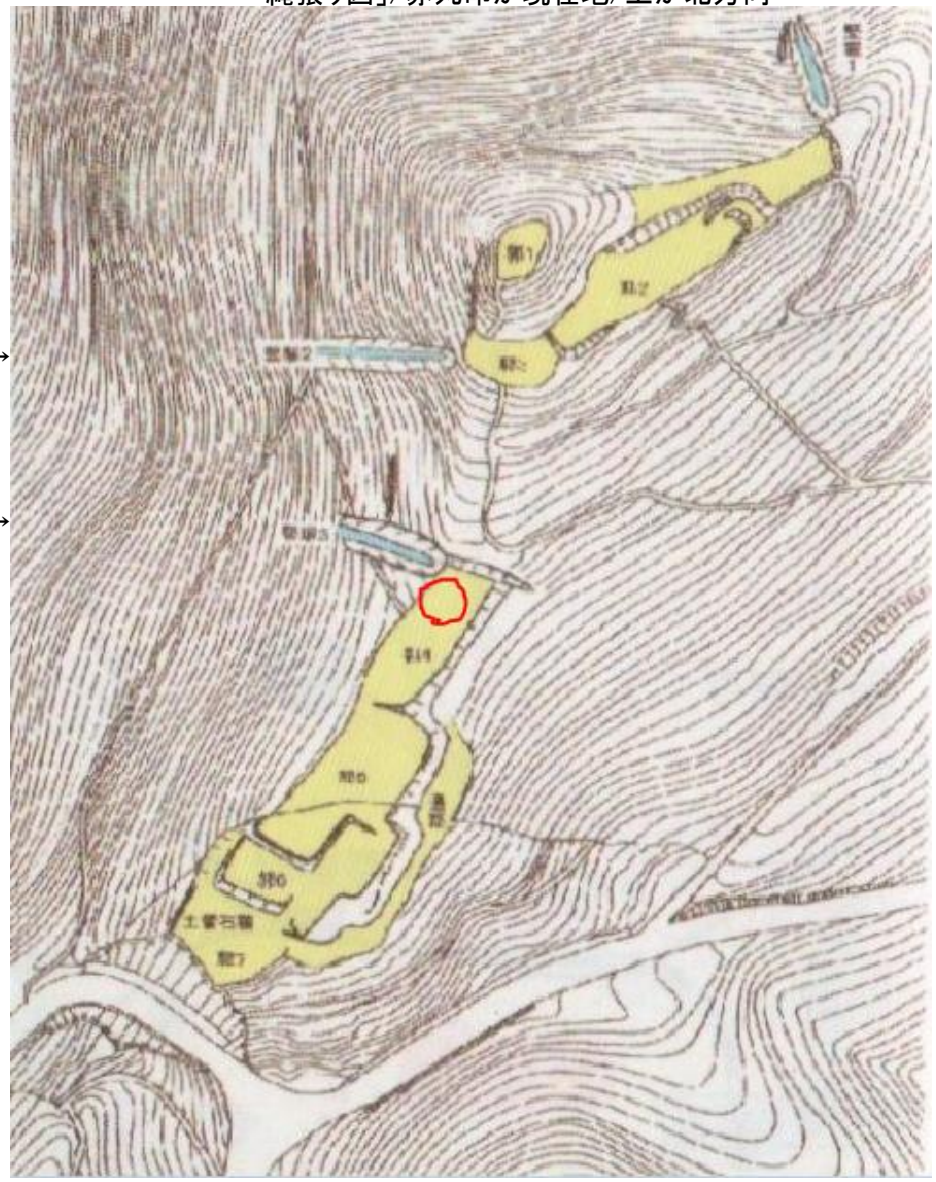
正面の看板は（公社）埼玉県緑化促進会の環境緑化整備事業の看板

ここを進んでみる

この先で右手に折れて登ってみる

すると平場がある/ここは次の縄張り図の郭4のようだ

「縄張り図」/赤丸印が現在地/上が北方向



埼玉県立嵐山史跡の博物館発行「比企の中世・再発見」より

今登って来た山道を振り返る/これは下の縄張り図の竪堀3に繋がっているようだ

郭4から山頂の郭1方向を見たところ

ここの左手から竪堀3が斜面を下っている

右手（東方向）を見たところ/こちらはつつじ公園の遊歩道になっているようだ

その遊歩道から西方向を見たところ/この先に竪堀3がある

これは南方向を見下ろしたところでベンチのある辺りが先程の郭4で、その先は郭5～7となっている

少し退いて見たところ/この部分は郭4とこの上にある郭3との土橋にあたるようだ/左手に折れる道は遊歩道

ここから東方向を見るとこのレベルにもつつじ公園の遊歩道がある/左手の階段は郭3への登り口

振り返って西方向を見たところ

山頂方向を見上げると東屋が見える

階段を登るとここが郭3/更に上方に展望台が見えるがそこが郭1

郭3にある東屋

そこから見た景色/南東方向を見たところで左手に花園城跡、花園御岳城跡が見える

左手を見たところ/次の写真はアップで見たところ

花園御岳城跡
↓

花園城跡
↓

東屋越しに山頂にある展望台を見たところ

こちらの階段からその展望台まで登って行く

左手の斜面を見るとこのような石積みの名残りが散見される

この展望台のあるところが郭1

金尾山（要害山）について

金尾山（要害山）について

この金尾山は、秩父鉄道波久礼駅の西方にあり、小高い美しい山で、別名要害山つつじ山と呼ばれ、戦国時代（15世紀中期～16世紀末）は鉢形城の西方（荒川の上流方面）及び後方の守りの支城として、古道の監視と鉢形城などを結ぶ連絡城としての機能を併せ持っていました。

全山につつじが自生しており、4月中旬から5月中旬まで山は緋の衣を着たように染まり、ふもとは、緑の袴をつけたようで、その眺めは広く人々に賞讃されています。

また、山頂の下方には、火伏せの神・阿久津智命と導きの神・猿田彦命の2柱を祀る愛宕神社があり、毎年4月29日に祭札が行われ、火伏せ、家内安全を願う人々で賑わっています。

平成 14 年 7月

埼玉県寄居林業事務所
問合せ TEL 048-581-0123

鉢形城跡・東京方面
宝登山・

これが南東方向の「鉢形城跡・東京方面」/左手に見える小山に花園城跡、花園御岳城跡がある

右手下を見ると先程の郭3にある東屋が見える/東屋と左手のベンチとの間の窪んだところが竪堀状となっており、ここを境に郭3と郭2（ベンチ側）になっているようだ

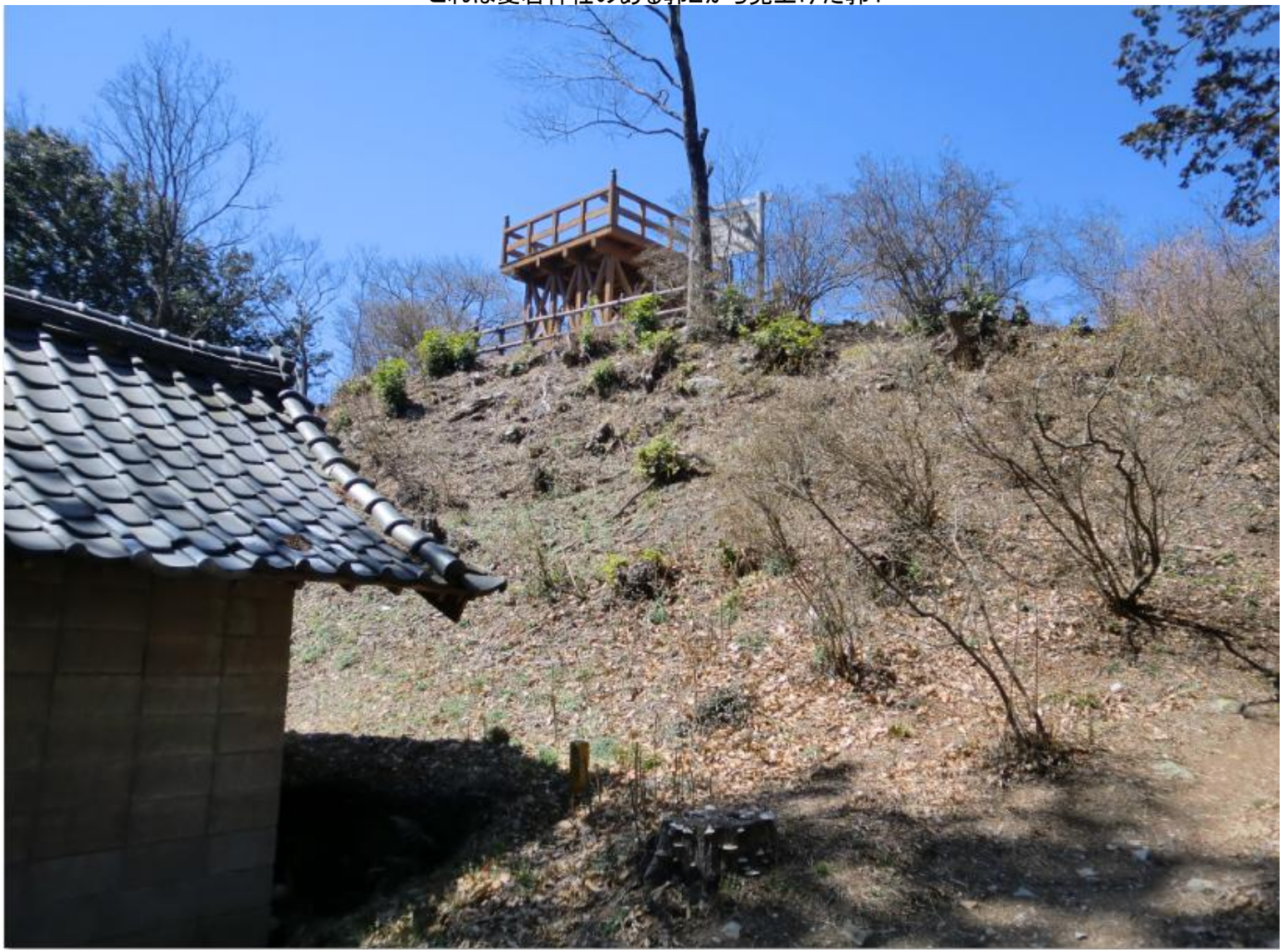
左手下を見ると郭2にある愛宕神社が見える

宝登山・秩父方面

これは西方向の「宝登山・秩父方面」/左手の山の向こうが藤田氏が築いた天神山城跡の方向のようだ

登って来た階段の反対にある階段のところから見た郭1

これは愛宕神社のある郭2から見上げた郭1



この愛宕神社があるところが郭2/左端に見える東屋のところは郭3

愛宕神社/左手に説明板が立っている

振り返って見たところ

これは覆堂

これが社殿ということになる

金尾山城（要害山城）の城主は金尾弥兵衛であり、天文元年（1532年）に藤田左衛門佐重利が築城したこと、今でも土塁・縦空堀り・馬出しなどの遺構がみられること、山麓の伝蔵院が金尾弥兵衛の館跡であること、二の曲輪に城の守護神として祠堂である愛宕神社が建立されたことなどが記されている

金尾山由来

「金尾」の名の起りは、古く奈良時代頃で、和銅年間（七〇八―七一五）、銅を産し、元明天皇（第四十三代在位七〇七―七一五）に献上した黒谷村（現秩父市）の和銅山より続きし山の尾なるがゆえにこの名となると言われている。

一、金尾山は村の西北に位置し、標高二百二十九米、別名要害山・愛宕山・つつじ山とも呼ばれ、近くは、昭和三十四年四月には、天皇・皇后両陛下をお迎えしての全国植樹祭が行われたことから、さらに広く有名になりました。面積約三ヘクタール、古くは白鳥村有林として地元（上郷耕地）で管理、昭和十八年合併により寄居町有となり、さらに、昭和三十四年には県へ寄託され、現在は、県林業事務所の下で、良好な管理が行われて居ります。この山には、およそ一万株の自然性つつじがあり、四月中旬から五月中旬には全山まるで緋の衣のように染まり、すそ野の桧の縁は袴のごとく調和してその眺めは広く賞賛されて居り、期間中つつじ祭りが催されます。そのつつじの大きい株は高さ三米、幹回り〇・三米、枝回り七米を越え樹令二百年以上と言われて居ります。

遠い昔の先人達が、むらの信仰の山として崇め、また、村の緑地帯計画に基づく憩いの山として桜・つつじを植えたもので、農事学術研究会、金尾愛郷会、金尾保勝会、現在の町観光協会金尾支部へと引き継がれ、その保護育成が計られてきたものです。

二、金尾山は、中世の名城鉢形城（文明八年（一四七六）、長尾景春築城）西方の支城の一つ要害山城（城主金尾弥兵衛）跡で、天文元年（一五三二）藤田左衛門佐重利が築城したものと言われ、天正十八年（一五九〇）六月十四日鉢形城の落城とともに廃城となりましたが、今でも土塁、縦空堀り、馬出しなどの遺構がみられます。

また、山麓の伝蔵院は城主の居館跡で、ここから裏山越えに、城へ往来したと言われる細道があり、さらに金尾の対岸、波久礼の地に城の穀倉があったことから、この一帯に「殿倉」の地名が残り、「殿倉の渡し」跡もよく知られて居ります。

三、山頂下の二の曲輪には、永禄三年（一五六〇）以降、支城の完成を機に城主が城の守護神として祠堂を建立したのが、その初めと言われる愛宕神社があり、火伏せの神阿久津智命導きの神猿田彦命の二柱をお祀りしてあります。氏子は、毎年四月二十九日には、祭典を行い、〝お日待ち〟を催し、火防と家内安全のご利益を祈願いたして居ります。また、当日の〝付けまつり〟として、遠くは深谷九一々座の神楽が奉納された事もあり、近年に至り氏子の手により神楽獅子舞・火の輪くぐりの火防行事を復活させ、御神札、御守り札の授与などがあり、信仰をあつめて居ります。

昭和三十五年には、社殿の改修が行なわれて以来、県林業試験場の指導により、参道の整備、つつじ園の手入れ、休憩舎の設置、五十九・六十年には、遊歩道の改良など、むらをあげて保存活動に協力し、この名山を後世に残したいと考えて居ります。

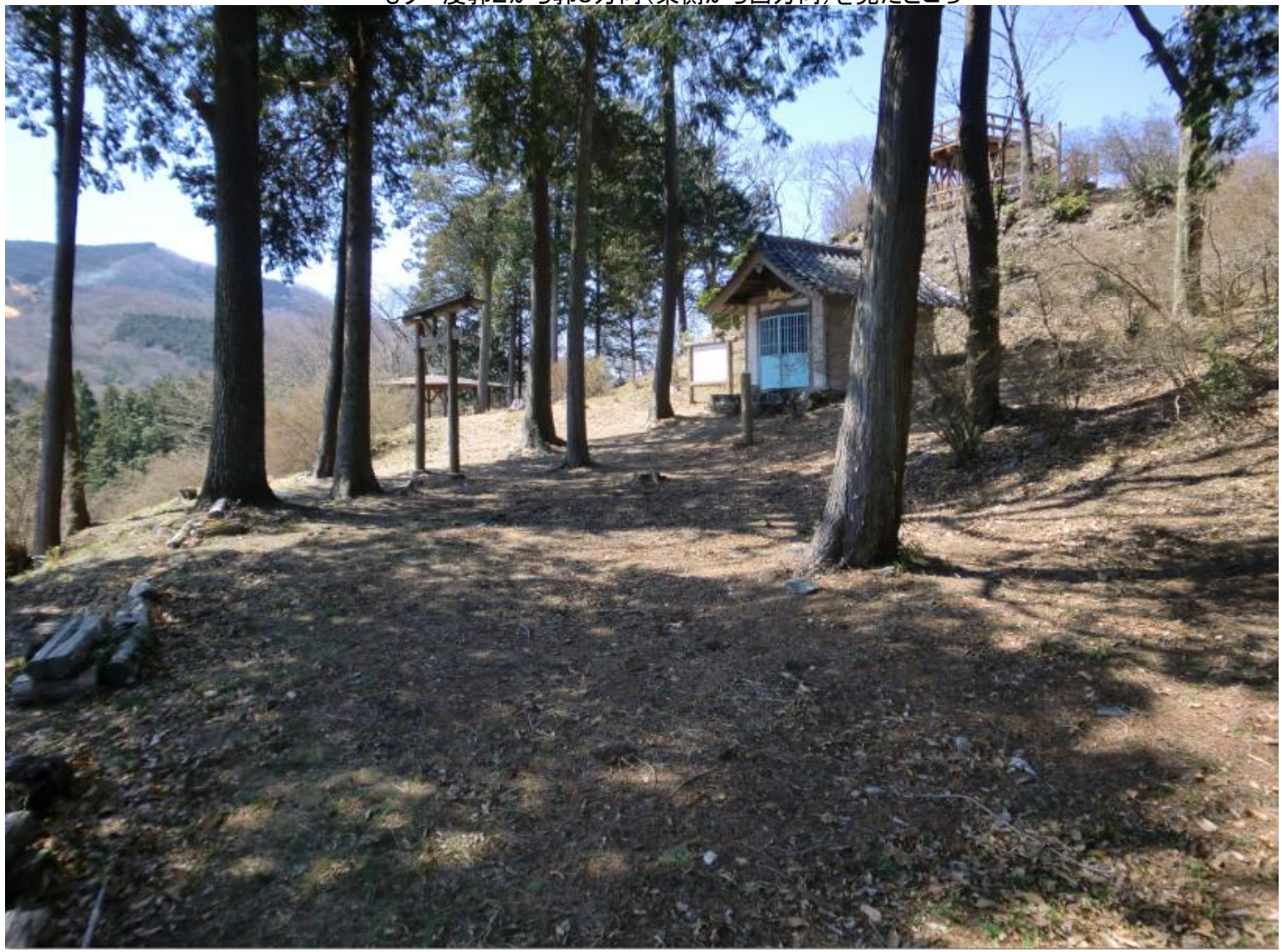
愛宕神社の御神徳により、金尾山の安泰と郷土の限りない発展、ひいては、住民の幸福に御加護賜わらんことを深く祈願申し上げるものです。

昭和六十一年　四月十一日

奉納

寄居町金尾白髪神社氏子一同
寄居町西部分館金尾公民館
寄居町観光協会金尾支部

もう一度郭2から郭3方向（東側から西方向）を見たところ



ここで振り返って東方向を見る/ここは虎口であったのであろうか

その虎口の辺りから郭2方向を見ると右手に堀跡のような窪みがある

こんな感じ

堀跡のような窪みを反対から見たところ

郭2から郭1を見上げたところ

山頂の郭1から下に見えた郭2と郭3との間の竪堀状の窪みの辺りから郭2を見たところ

これが竪堀状の窪み/あるいは堀切であろうか

こんな感じ

その下は斜面となっている

その斜面に下りて東屋を見上げたところ

これは郭1を見上げたところ/やはり窪みは竪堀（あるいは堀切）の名残りであろうか

さて、もう一度最初に登って来た郭4を見下ろしたところ

郭4に下りる

そこから振り返って郭1方向（北方向）を見上げたところ

振り返って南方向を見たところ/この先は一段低くなっている

この一段低くなったところは郭5のようだ/西方向を見たところ

郭5から郭1方向を見たところ

南側はこの先更に下がっている

もう一段小さな平場があってその向こうは急峻な斜面となっているようだ/この平場が郭6なのか、すると郭7は？

さて、これは東側から遠景で金尾山を見たところで矢印のところに郭1の展望台が見える

↓

アップで見たところ
↓

ところで、ここは金尾氏の館跡があったという伝蔵院というお寺/ここのすぐ右手が金尾山城跡のある金尾山

正面が金尾山伝蔵院の本堂/左手前の石碑は「日本二体梵字板碑」だそうだ

ここが「金尾弥兵衛居館跡」ということが記されている

境内を横から見たところ/左手が本堂

これは本堂の裏手を見たところ

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/245kaneoyama/kaneoyama.html

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/61722507.html

http://blogs.yahoo.co.jp/aganohito/32554788.html

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/kanaoyama/index.html

http://www43.tok2.com/home/yo1029/photo1237.html

http://joe.ifdef.jp/02-009kanao/kanao.html

http://53922401.at.webry.info/201406/article_2.html

http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/kanaojou.html

http://jp-castles.cocolog-nifty.com/blog/2012/09/post-3720.html

http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/yoriimati.htm#kanao

http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.yoriimati.html

円良田
矢那瀬
矢那瀬
美里町
140
円良田湖
秩父鉄道
秩父本線
金尾
140
82
82
円良田ダム
末野
波久礼駅
349
金尾
長瀞CC
140